

春歌秋歌

らものらくし

令和7年
12月6日(土) ~ 令和8年
2月1日(日)

尼崎開明rooms
(尼崎市開明庁舎内)

会期 | 令和7年12月6日(土) ~ 令和8年2月1日(日)
午前10時 ~ 午後5時(土・日・祝日は午後6時まで)
休館日 | 毎週火曜日、12月31日(水)
料金 | 入場無料
会場 | 開明rooms(尼崎市開明町2-1-1 尼崎市開明庁舎1階)
主催 | 一般社団法人あまがさき観光局
協力 | 中島らも事務所
制作 | 合同会社 eitoeiko

出展原稿
中島らものゆるゆる・びんぎょ
らも咄
牛乳時代
寝ずの番



まことにご迷惑を
おかけしてあります

深く深く
おめびりし上げてます

中島らも

らもくごの

春歌秋冬

劇作家、ミュージシャン、放送作家、小説家など多方面に才能を発揮した中島らも（1952年尼崎市生まれ）。『春歌秋冬 らものらくご』では、40本以上を書き情熱を注いだ新作落語から自筆原稿を中心に紹介します。

ナンセンスに埋もれ不条理に翻弄される人々を笑いで包んだ、中島らもの新作落語の世界。



春歌秋冬 自筆原稿 1997年

尼崎の鉄工所の元社長が登場する本作は「寝ずの番Ⅲ」に改題し「寝ずの番」に収録されています。春歌は艶歌ともいわれ、性を題材にした猥褻な表現が含まれています。今日の社会規範を鑑み、学術的側面から公開します。

尼崎と落語

上方落語を復興した人間国宝・三代目桂米朝（1925-2015）が武庫之荘に家族、内弟子とともに移住し、尼崎落語勉強会を開いて落語振興に努めました。新人お笑い尼崎大賞、尼崎落研選手権やきふね寄席、元気の出る落語会など、尼崎は「らくごのまち」として発展しています。

中島らも

らもと落語

古典落語は面白いけれど、進歩がない。そう考えたらもは新作落語を雑誌連載し『らも咄』となりました。また友人知人の噺家の話をヒントに書いた『寝ずの番』など、ウィットに富んだ生原稿を展示します。

トークイベント

松尾貴史さんを迎えて

本展に出品する自筆原稿「神も仏もアルマジロ」は、ラジオ用のコント台本をもとに、松尾貴史さんのために落語台本として書かれました。松尾さんを迎えて、当時のいきさつなどを本展企画者の癸生川栄がお聞きます。



12月7日（日）14:00～15:00
会場 | 開明庁舎 2階 AMA-NEST
入場料 | 1,000円
先着順申込 定員 80名様

チケットはこちらのQRコードより
申込ください。

会場案内



五合橋線

〒660-0862 兵庫県尼崎市開明町 2-1-1
尼崎市開明庁舎 1階
TEL 06-6409-4946 FAX 06-6417-5146
<https://kansai-tourism-amagasaki.jp/>

表面イラスト
装画担当の山藤章二氏に宛てた謝罪文 1992年頃